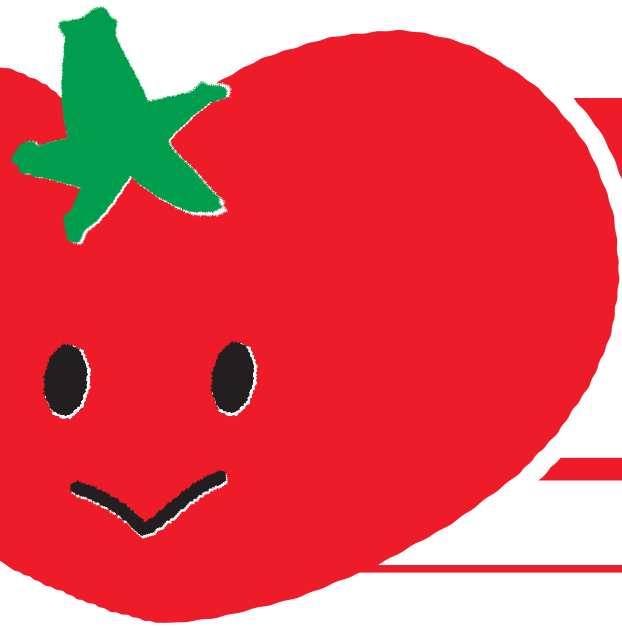




笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2019.4 April vol.47

2月定例議会

人に寄り添う取り組み

子どもオンブズ制度の導入を

2月12日から3月1日までの期間で定例議会が開会されました。統一地方選挙も控えているということもあり、余裕のないスケジュールで進み、いつもより1週間程度短い会期でした。今議会では、提案された、新年度予算、法改正に伴う条例改正など76議案をすべて可決し、2件の特別委員会報告も採択しました。今期で退任される溝口知事に対しては、感謝決議を議員提案で行いました。

子どもオンブズパーソン制度の導入について

子どもオンブズパーソン制度の導入を求めるが、考えを聞く。

健康福祉部長 島根県では、島根県子どもと家庭の相談機関連絡会議が、相談から見えてくる子どもの権利や課題等について情報共有や情報交換をし、県の施策への意見を集約できる機能を担っている。また、児童の権利擁護という視点では、既存の社会福祉審議会児童福祉専門分科会において関係者から意見を聞くことができる仕組みがある。一方、国において平成29



年に新たな社会的養育ビジョンが示され、県では県の社会的養護体制推進計画の見直し作業を進めている。再来年度から10年間を計画期間とした島根県社会的養育推進計画を来年度中に策定する。この計画の中で、児童の権利擁護についてもその方向性を示していきたい。来年度、計画策定の議論の中で、子どもオンブズパーソン制度について項目として取り上げ、皆さんに議論をしていただく考えである。

幼児教育センターについて

これまでのところ、県内全保育所・幼稚園のうち、どれくらいの施設を訪問されたのか。

教育長 幼児教育センターが対象とする県内の保育所、幼稚園などは447施設あるが、多くの訪問要請があり、平成30年4月から平成31年1月末までの10カ月の間に延べ158回、保育所、幼稚園などにおける研修支援をした。訪問施設数は78施設で、幼稚園、保育所などの研修ニーズの高さを

認識した。

教育事務所の指導主事と幼児教育アドバイザーが一組となって訪問し、それぞれの知見や経験を生かして研修を支援している。

認可外保育施設について、幼児教育センターの対応はどうなっているのか。

健康福祉部長 県としては、県内の保育施設に通う全ての子どもが質の高い教育、保育を受けることができるよう、認可外保育施設においても教育、保育の質の確保、向上を図ることは重要であると考えている。このため、幼児教育センターでは、認可施設と同様、認可外保育施設にも、訪問を始め集合研修の開催や相談対応など、各種支援の対象としている。

訪問による支援は、現在のところ認可外保育施設からの要請はないが、県としては認可外保育施設に対し、幼児教育の無償化について説明会を開催する予定で、その際にセンターの活用について周知する。引き続きセンターの活動を通じ、各施設における教育、保育の質の確保、向上を図られるよう努めていく。

これまで訪問されたなか

で、見えてきた課題やこれから取り組むべきことなど、今後どのような対応を考えているのか。

教育長 これまでの施設訪問や実態調査の分析により、県内の保育所、幼稚園などの置かれている状況や課題は極めて広範で多岐にわたることが確認できた。一方、県内の保育所、幼稚園などでは園や地域の実態に応じたすぐれた実践や特色ある取り組みが行われていることも確認できた。そこで、県内のすぐれた実践などを収集、研究、普及して、県内で行われる幼児教育の水準の維持、向上を図ることは、幼児教育センターが取り組むべき重要な責務の一つであると考えている。

現在、策定中の幼児教育振興プログラムにおいて県内の取り組みなどを掲載する予定

定。来年度中に取りまとめるプログラムの普及に努める中で、幼児教育に関する県内外の幅広い知見を県内の保育所、幼稚園などで共有できるよう努める。

人員体制などセンターのさらなる充実も必要だと考えるが、いかがお考えか。

教育長 現在、県において教育事務所に配置している指導主事と幼児教育アドバイザーは4名。引き続き地域の幼児教育の状況や他県の先進的な事例を研究するとともに、関係機関相互の連携、協働のあり方を含め、市町村とも役割などについてよく協議したいと考えている。その中で、幼児教育センターにおける事業の推進体制についても検討したいと考えている。

生活困窮者支援制度について

県として積極的に貧困世帯の子どもを支援していくための予算を確保し、必要な人員確保と体制づくりにつながる仕組みが必要と考えられているが、いかがお考えか。

県議会議員4期目

皆さんの笑顔のために

4月7日に投票が行われた県議会議員選挙では、4期目の当選を果たすことができました。市民の皆様のお力で押し上げていただいたことに感謝します。

当初、無投票かと言われていた選挙でしたが、告示日の数日前に届け出に必要な書類を取りに来た人がいるというところから、俄かに慌ただしくなり、あっという間に選挙戦に入ったという状況でした。

今回は現職者が退任することから、県知事候補が4人立ち、保守分裂の激戦という中、私の所属する民主県民クラブは、自民議連の一部の議員と

一緒に丸山たつや候補を支援し、選挙戦も丸山候補の応援をしながらの選挙運動となりました。

自分の選挙をしながら、同時に丸山候補の応援もするという、これまでになく選挙に、試行錯誤のスタートでしたが、日に日に応援にも熱が入り、最終日への盛り上がりを見せながら、丸山候補への追い風を吹かせることができました。丸山たつや新知事を誕生させることができ、県政にも新しい風が吹き込むことを期待しています。

民主県民クラブは、11人の立候補者が選挙戦に臨みまし



たが、残念ながら、5人しか当選を果たすことができなかった。議席拡大どころか、前回の8議席から5議席へと大きく後退してしまいました。これからは民主県民クラブの議員全員の力を合わせて、これまで以上の成果を出せるよう頑張ります。

とまちゃん通信



総務委員会で執行部と議論

今議会の総務委員会では、一般質問で取り上げなかった課題について質問、要望しました。

新年度事業について提案（総務委員会）

松江保健所について
現在までのところでの課題と今後の対応について聞く。
健康福祉部長 保健所の共同設置は全国で初めての取り組みであり、円滑な業務の移行ができるよう、これまでの県松江保健所が行ってきた業務のやり方を継続することを基本としてスタートしてきた。約1年が経過し、県、市の制度

共同設置による
県では自立相談支援機関の職員に対する研修を毎年行っており、人材育成を継続しながら、より効果的な支援につながるよう努めていく。

共同設置の保健所の将来像について、現時点での見解を聞く。
健康福祉部長 共同設置保健所の今後の課題としては、1つには、現在松江市が担っている住民に身近な保健サービスと聞く、保健所業務をどのように連携させていくのか、2つには共同設置保健所は県と市の職員で構成されているが、その職員配置割合を今後どうしていくのか。

や仕事の進め方の違いを再認識した。
出てきた課題について、現場でもお互いを理解し解決に努めてきている。加えて中核市支援スタッフによる調整や連絡会議の場を通じて引き続き対応していきたい。

総務委員会で執行部と議論

答弁では、他の部局でも再生エネルギー利活用の予算が組まれており、それらを合わせると今年度並みであるということでしたが、積極的な取り組みを求めました。

元号と西暦の併用を

再生可能エネルギーの活用推進を
昨年度の決算審査でも、市町村と協力して再生可能エネルギーの利活用を広めてほしいと要望しましたが、新年度の地域振興部所管予算では、今年度当初予算より少なくなっています。再度、利活用に積極的に取り組むよう要望しました。

新年度事業について提案（総務委員会）

まずは安定的な運営を確保した上で、よりよい保健所運営ができるよう松江市、安来市とも一緒に考えていきたい。

共同設置の保健所の将来像について、現時点での見解を聞く。
健康福祉部長 共同設置保健所の今後の課題としては、1つには、現在松江市が担っている住民に身近な保健サービスと聞く、保健所業務をどのように連携させていくのか、2つには共同設置保健所は県と市の職員で構成されているが、その職員配置割合を今後どうしていくのか。

や仕事の進め方の違いを再認識した。
出てきた課題について、現場でもお互いを理解し解決に努めてきている。加えて中核市支援スタッフによる調整や連絡会議の場を通じて引き続き対応していきたい。

今年4月で退任される溝口知事は、私と同じ時に当選され、3期務められました。この間、財政健全化に取り組みました。人員削減や給与減額など職員にとっては厳しい対応もありましたが、事務事業の見直しなどにも取り組まれ、県債の縮減など財政収支の改善に尽力されました。また、石見銀山の世界遺産登録に力を尽くされることも、観光振興にも取り組みられたところですね。途中で大病を患われ療養された時期もあり、心配しましたが、短期間で復帰され、知事の職に専念されました。

5月に予定される元号改正によって、今後、三つの元号がいろいろな場面に出てくることも考えられ、西暦との併用を進められたいと要望しました。

法務専門官の採用を
松江市では弁護士資格を持つ専門の職員を採用しており、県も採用について考えるべきではないかと指摘しました。児童相談所への弁護士配置が求められていますし、そのほかにも県民と接する中で法律に触れることも多く、弁護士の活躍が期待されます。また、特殊詐欺への対応強化、信号機の設置・更新予算の確保についても要望しました。

溝口知事退任

案をしてきました。なかなかすべての要望が叶うことはありませんでしたが、それでも一部は実現したのもあり、政策実現に誠実に取り組んでいただきました。今後、島根県にあっての知事のご活躍をお祈りします。

市職ユニオンのユース部の交流会に参加しました。八束体育館にて、ドッジボール。ある程度何でもスポーツはします。が、久々のドッジボールはさすがの私もたじろぎました。それでもせっかく誘ってくださいだったのでちょっとだけ参加。

何年ぶりのドッジボールでしようか。ボールを投げてもしっかり飛ばないし、キャッチするの怖しいし、逃げ回るのが必至。皆さんも私の顔を見て、お母さんのような歳の人にボールをぶつけるのは躊躇した

市職ユニオンのユース部の交流会に参加しました。八束体育館にて、ドッジボール。ある程度何でもスポーツはします。が、久々のドッジボールはさすがの私もたじろぎました。それでもせっかく誘ってくださいだったのでちょっとだけ参加。



溝口知事を囲んで

地域課題について語り合う女性たちと交流

2月6日、雲南市及び近郊在住の女性を中心とした皆さんでつくる団体「あげそげ！はっけんぐみ」が開いた座談会に参加しました。「議員ってどんなことしているの」という疑問から、議員に直接聞いてみようというところで開かれ、3人の雲南市議会議員の皆さんと県議会議員の私の4人が参加しました。

議員のなり手不足について、参加者から「北欧などでは夜に議会を開く取り組みによって他の仕事を持ちながら議員活動している」との

紹介がありました。議員の側からは、兼職で議員ができることは良いが、それには雇用主や周りの人たちの理解が必要で、仕事を早く切り上げて議会に向くことや、調査が必要などときに有給休暇が取れる環境などがあれば可能ではないかといった意見が出ました。

お茶を飲みながら、ざっくばらんに地域の課題や身の回りの問題について意見交換の場を作っている「あげそげ！はっけんぐみ」の活動に、私も含め議員の皆さんも、有意義な取り組みと称賛していました。いろいろな

世代の人たちが、みんなで意見を出し合う場をつくってあげば、より政治への関心も高まり、議員のしやすい環境がつけられていくでしょう。



議会のあり方について意見交換

ドッジボールでストレス解消



若い人たちとスポーツ交流

みたいです。ボールから逃げ回って、私にはストレス解消、運動不足

の解消になりました。お誘いいただいたユース部の皆さんに感謝です。